

西部地区再編案A

資料2-5

御岳山→西部地区小中施設一体型一貫校
約70分(徒歩+公共交通)

二俣尾5丁目→西部地区施設一体型小中一貫校
約70分(徒歩+公共交通)

畠中1丁目→西部地区施設一体型小中一貫校
約55分(徒歩・約3.8km)
約20分(徒歩+公共交通)

西部地区施設一 小中一貫校

【再編後の学校規模】		2059年
西部地区 施設一体型 小中一貫校	児童数	303
	学級数	12
	生徒数	181
	学級数	9

【再編案の考え方】

- ・第六小学校、西中学校の規模適正化を図る。
- ・地区内の小中一貫教育を推進するため、施設一体型の小中一貫校を1校設置する。
- ・御岳山等の遠距離通学に配慮する。

【再編方法】

- ① 中央地区の第一小学校区の一部（日向和田）を第五小学校区へ変更（2037年ごろ）
- ② 西中学校の建て替えに合わせて第五小学校、第六小学校を西中学校の位置にて施設一体型の小中一貫校とする。（2040年までに）

日向和田2丁目→第一小学校
約45分(徒歩・約3.1km)
約30分(徒歩+公共交通)
日向和田2丁目→第一中学校
約25分(徒歩・約1.7km)

日向和田2丁目→西部地区小中一貫校
約30分(徒歩・約2km)
約25分(徒歩+公共交通)

【再編における効果】

【行動指針による効果】			
項目	適正規模	適正配置	小中一貫教育
効果	◎	×	◎
内容	2059年まで望ましい規模を維持できる	御岳山等、一部地域にて通学時間が長時間となる。	施設一体型小中一貫校1校となる。